

2025年3月13日

各 位

会 社 名 株式会社トラス・オン・プロダクト  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 藤 吉 英 彦  
( コ ー ド 番 号 6 6 9 6 東 証 グ ロ ー ス )  
問 合 せ 先 取 締 役 C F O 青 柳 貴 士  
電 話 番 号 045-595-9966

### 「継続企業の前提に関する重要事象等」の記載解消に関するお知らせ

当社は、本日付で開示いたしました「2025年1月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)」において、「継続企業の前提に関する重要事象等」の記載を解消いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

当社は、前事業年度まで、営業損失、経常損失及び当期純損失を6期連続計上したことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる事象又は状況が存在しておりましたが、経営基盤の強化や業績の改善に全社一丸で取り組んでまいりました。

こうした中、当社は、2022年4月に社名を変更し、同5月には財務基盤の強化を図るべく資金調達を実施し、過去からのBtoB市場に向けた単なるモノの販売からの脱却と成長方針に掲げるBtoB市場に向けたモノづくりを基盤としたSaaS月額課金型サービスを当社の主力事業とすることを目指し、経営資源をTRaaS事業へ集中し事業転換を図ってまいりました。TRaaS事業においては、新ビジネスであるAI電力削減ソリューション「AIRUX8」、流通小売店舗を対象としたDX店舗活性プロダクト「店舗の星」及びデジタルサイネージプラットフォーム「CELDIS」において、戦略販売パートナーの数を増やすと共に、当社製品への理解とその連携を強化することにより、大小の様々なプロジェクト案件の導入が進行いたしました。大きなプロジェクト案件については、システム開発の計画及びその実行にも着手しており、一定の時間を要しているものの、導入も着実に進み安定収益として売上高の拡大に寄与いたしました。

受注型Product事業においては、アフターコロナでのインバウンド需要拡大に伴い、ホテル・飲食店等のホスピタリティ市場の回復が顕著となってきていることから、その引き合いが増加しております。当社が長年培ったSTBの開発技術力と調達ネットワークを活かしたお客様のニーズを捉えた的確な提案により、既存取引先からのSTB及びサーバー案件等の安定受注のみならず、新規受注が加わり、当社の強みが最大限発揮できるセグメントとして、売上高に大きく貢献いたしました。

テクニカルサービス事業においては、大型システム開発案件の継続受注等により、安定した収益を確保いたしました。費用面では、継続した業務効率改善による経費の見直しと経費圧縮による徹底したコストコントロールを実施し、キャッシュ・フローの最大化に努めてまいりました。

こうした取り組みの成果として、当事業年度においては、前年同期比で全てのセグメントにおいて増収増益となり、営業利益、経常利益及び当期純利益において黒字化を達成するとともに営業キャッシュ・

フローも大幅に改善しプラスとなりました。また、本日公表いたしました「2025年1月期決算短信〔日本基準〕（非連結）」の2026年1月期の業績予想においても営業利益、経常利益及び当期純利益の黒字を見込んでおります。

このような状況を総合的に判断した結果、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせる事象又は状況は現時点において存在しないものと判断し、「継続企業の前提に関する重要事象等」の記載を解消しております。

株主の皆様、取引先をはじめとするステークホルダーの皆様には、大変ご心配をおかけいたしました。が、今後もさらなる業績及び企業価値向上に努めてまいりますので、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上